

2024年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
33404	フードコーディネート Food coordinate	樋口麻友香		専門	2	選択	1・2後期

科目の概要

フードコーディネートとは、食に関するさまざまな場において複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することである。そのためには食に関する広い知識が必要になる。この科目では、フードスペシャリストとして、フードコーディネートに必要な専門的知識を修得し、社会に出てから職場や家庭で、これらを活用することができるよう、「おいしさの本質」、「食文化」、「食卓や食空間のコーディネート」、「フードサービスマネジメント」など多岐にわたる内容をテキストに沿って学修する。(ディプロマ・ポリシー②、③、④該当)

学修内容	到達目標
① フードコーディネートの基本理念を学ぶ。 ② フードコーディネートを必要とする場面で実践するための知識を学ぶ。 ③ メニュープランニングについての基礎を学ぶ。 ④ フードサービス店舗（レストラン）の起業のための食空間のコーディネート及びフードサービスマネジメントの基本を学ぶ。 ⑤ 食企画の実践のために必要な基礎スキルを学ぶ。	① おいしさの本質ともてなしの意味を説明することができる。(②) ② 日本料理・中国料理・西洋料理の食卓のコーディネートの方法を知り、それぞれの料理のサービスの仕方と食べる時のマナーについて説明することができる。(②、③) ③ メニューの料理様式や型の基本を知り、料理の流れを組み立てることができる。(②、③) ④ フードサービス店舗（レストラン）の起業のために必要な食空間のコーディネートの知識とマネジメントの方法を説明することができる。(②、③) ⑤ 食企画を考え、その企画書を作成することができる。(②、③、④)

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	今回の授業内容について、テキストの該当箇所や関連する内容を確認し、予習をする。課題をするのに必要な知識について、教科書、文献を使って自己学修をすることができる。
	働きかけ力	目標を到達するために、自分一人ではできないとき人の力をかりるための声掛けができる。
	実行力	提出物は期限内までに確実に最後までやり遂げ、提出する。
考え抜く力	課題発見力	毎回の授業で内容を振り返り、学ぶことができたところとできなかったところを明確にし、できなかったところは質問をしたり、自分で調べたりして説明できるようにしておく。
	計画力	課題達成までに必要な時間を考え、計画を立てる。計画通りに進まない時は、計画を見直し修正できる。
	創造力	テレビ・雑誌・新聞などを見て、実際に活用できそうなことを考えついてノートに書き加えたり、授業内で提案したりする。
チームで働く力	発信力	聞き手にわかりやすい発表の仕方（声の大きさ、スピード等）や話すポイントが整理され発表することができる。
	傾聴力	話を聞く時は、うなずきやあいづちをしながら聞く。自分の理解・解釈が正しいかどうか確認できない時は、質問して確認をし、分かるようにする。
	柔軟性	グループ討議をする際に自分と異なる意見や価値観を尊重し、柔軟に受け入れることができる。
	状況把握力	自分で割り当てられたことだけでなく、集団の中で自分ができていることを考え、目標に向かって協力できる。
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	失敗したときや強いプレッシャーで動揺したり、落ち込んだりしても、長引くことなく次へ進むことができる。

テキスト及び参考文献

テキスト：「三訂 フードコーディネート論」 (社)日本フードスペシャリスト協会編 建帛社、1,900円＋税
 参考文献：日本フードスペシャリスト協会編 「フードスペシャリスト資格認定試験 過去問題集」 建帛社、1,200円＋税
 必要に応じて資料を配布する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：他のフードスペシャリスト資格関連科目
 資格との関連：フードスペシャリスト・食生活アドバイザー検定

学修上の助言	受講生とのルール
--------	----------

<ul style="list-style-type: none"> シラバスを確認し予習・復習を怠らず、重要な言葉やポイントが分かるように整理しておくことよい。 日々の生活の中でおいしさや食卓のコーディネートに対する感性を磨いて欲しい。 フードサービスに関する情報に関心を持って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 6回以上の欠席は「放棄」判定となる。 欠席時の資料は、次の授業時に取りに来る。 私語や携帯電話の使用、居眠りなど、授業を妨げたり無視したりする行為はしない。
---	--

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
	平常評価	小テスト	45	①	✓	・4回目（1回～3回の内容）、11回目（4回～10回の内容）、14回目（11回～14回の内容）の授業内で、フードスペシャリスト資格試験の過去問題を使って授業の理解度を確認する。（3回）（15点×3回） フードスペシャリスト資格試験の過去問題は授業内で解説する。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
		レポート	45	①	✓		・「中国料理の特徴と料理」について調べ、レポートにまとめる。（4週目）（A4両面1枚、5点） ・1～15回の配布資料に必要事項を記入し、表紙を付けて提出する。（15週目） ・授業の復習課題を提出する。復習課題は授業終了時に配布する。（毎回）（A4両面1枚、3点×15回）
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性） 予習・復習をすることができる。 （実行力） 課題は確実に期限内までに提出する。 （課題発見力） 授業で理解できなかったところを明確にすることができる。（振り返り表） （創造力） フードサービスに関心を持ったことについて提案ができる。 （発信力） 聞きやすい声のトーンや音量に注意して、自分の考えを正しく伝えることができる。 （傾聴力） 授業をよく聞いて資料の空欄を埋めることができる。（1～15回の配布資料） （規律性） ①遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 ②欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
フードコーディネーターが、食に関するさまざまな場において複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出するためのものであることが分かるようにする。レポート試験において自分で調べ、自分の考えを入れてまとめられている。毎回の授業の振り返り表で、できたところとできなかったところを明確にすることができ、授業の重要な点を説明できる (①)。さらに興味を持ったところや疑問点を自ら調べ、レポートにして自主的に提出することができる (②)。 S(秀)=①+②、A(優)=①	フードコーディネーターが、食に関するさまざまな場において複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出するためのものであることが分かるようにする。(①) 毎回の授業の振り返り表で、できたところとできなかったところを明確にすることができる。(②) B(良)=①+②、C(可)=①

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 科目の概要 フードコーディネートの基本理念	講義	フードコーディネートの基本とされる「おいしさ」「おもてなしの心」について説明できる。	(復習) P.1~13を読んで、「おいしさの本質」「おもてなしの心」の要素をまとめる。(課題提出)	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
2	食事の文化(1) 日本人の食生活の歴史的な成り立ちを学ぶ。	講義	食事の文化的、社会的役割を説明することができる。	(復習) 日本の食事の歴史を時代ごとにまとめる。(課題提出) (予習) P.15~27を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
3	食事の文化(2) 特別な日の食事や世界の国々の食事の特徴や動きを知る。 日本の食文化についてのイメージを整理する。 和食についてDVDを視聴し、その魅力について意見を発表する。	講義 youtube視聴「和食が日本文化である理由」(約30分) 質疑応答・発表 復習課題の返却(コメント入り)	主な年中行事と料理についてその特徴を答えることができる。 主な外国料理の特徴について答えることができる。 日本の食文化の基本的な事柄について説明ができる。	(復習) 年中行事と料理についてまとめておく。(課題提出) 1~3回の内容を復習して小テストに備えておく。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
4	食卓のコーディネート(1) 日本料理、中国料理のテーブルウェアや食卓のコーディネートについて学ぶ。	講義・小テスト(1~3回の内容) 復習課題の返却(コメント入り)	日本料理、中国料理のテーブルウェアや食卓のコーディネートについて表現することができる。	(復習) 日本料理の特徴と料理についてまとめる。(課題提出) 中国料理の特徴と料理についてレポートにまとめる。(2週間後提出) (予習) P.35~45を読んでおく。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
5	食卓のコーディネート(2) 西洋料理やスタイル別のテーブルウェア・食卓のコーディネートについて学ぶ。	講義 前回小テストの解説 復習課題の返却(コメント入り)	西洋料理やスタイル別のテーブルウェア・食卓のコーディネートについて説明することができる。	(復習) 西洋料理の特徴と料理についてまとめる。(課題提出) (予習) P.45~55を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
6	食卓のサービスとマナー(1) 日本料理のサービスとマナーについて学ぶ。 箸の正しい持ち方の実習。	講義 実習(箸の持ち方) 復習課題の返却(コメント入り)	日本料理のサービスとマナーについて説明することができる。 箸の正しい持ち方ができる。	(復習) 日本料理のサービスとマナーについてまとめておく。(課題提出) (予習) P.57~69を読んでおく。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
7	食卓のサービスとマナー(2) 中国料理、西洋料理のサービスとマナー、パーティやプロトコルについて学ぶ。	講義 復習課題の返却(コメント入り)	中国料理・西洋料理のサービスとマナー、パーティやプロトコルについて表現することができる。	(復習) 中国料理、西洋料理のサービスとマナーについてまとめておく。(課題提出) (予習) P.69~80を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
8	メニュープランニング(1) メニュープランニングの基本的な要件について学ぶ。	講義 復習課題の返却(コメント入り)	メニュープランニングの基本的な要件について説明することができる。	(復習) メニュープランニングの要件についてまとめておく。(課題提出) (予習) P.81~86を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	メニュープランニング(2) 日本料理の様式とメニュー開発の基礎について学ぶ。 精進料理についてDVDを視聴し、その魅力について意見を発表する。	講義 youtubeの視聴(日本料理大全【秋編】【冬編】約23分)、質疑応答 復習課題の返却(コメント入り)	日本料理のいろいろな様式について献立構成がわかる。 和食の特徴について答えることができる。	(復習) 日本料理の献立構成についてまとめておく。(課題提出) (予習) P. 87~91を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	メニュープランニング(3) 中国料理や西洋料理の様式とメニュー開発の基礎について学ぶ。	講義 復習課題の返却(コメント入り)	中国料理や西洋料理の様式について献立構成がわかる。	(復習) 中国料理と西洋料理の構成についてまとめておく。(課題提出) 6~10回の内容を復習して小テストに備える。 (予習) P. 92~98を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	食空間のコーディネーター(1) 食空間のコーディネーターの基礎について学ぶ。(レイアウト、インテリア)	講義 小テスト(4~10回の内容) 復習課題の返却(コメント入り)	食空間のコーディネーターの基礎的な要件について説明することができる。 (レイアウト、インテリア)	(復習) レイアウトやインテリアにはどんな要件があるかまとめておく。(課題提出) (予習) P. 99~113を読んでおく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
12	食空間のコーディネーター(2) 食空間のコーディネーターの基礎について学ぶ。(プラン作成・準備、キッチンコーディネーター)	講義 前回小テストの解説 復習課題の返却(コメント入り)	食空間のコーディネーターの基礎的な要件について表現することができる。 (プラン作成・準備、キッチンコーディネーター)	(復習) プランの作成のための要件をまとめておく。(課題提出) (予習) P. 114~121を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
13	フードサービスマネジメント(1) フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本について学ぶ。	講義 演習(開業したい店のコンセプトを考える) 復習課題の返却(コメント入り)	フードサービスマネジメントの専門用語を知り、マネジメントに必要な要素を示すことができる。	(復習) フードマネジメントに必要な要素についてまとめる。(課題提出) 開業したい店のコンセプトを考えておく。 小テスト(11~14回の内容)を復習して小テストに備える。 (予習) P. 123~134を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
14	フードサービスマネジメント(2) フードサービスの起業について学ぶ。	講義 復習課題の返却(コメント入り) 小テスト(11~14回の内容)	起業(レストラン)にあたってコンセプトの作成、立地選定、店舗選定、投資計画・収支計画の流れを学び、損益計算ができる。	(復習) 起業に必要な要件についてまとめておく。(課題提出) (予習) P. 134~143を読んでおく。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
15	食企画の実践コーディネーター 食企画の基本的な流れと実践のための基礎スキルについて学ぶ。	オンデマンド 小テスト答え合わせ・解説 復習課題の返却(コメント入り)	食企画の基本的な流れと実践のための基礎スキルについて説明することができる。 食企画のコーディネーターについて表現することができる。	(予習) P. 145~163を読んでおく。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力